

UTO

未来へ“輝くふるさと”宇土



熊本県宇土市
市勢要覧
2019



春



夏



秋



冬

復旧から復興へ
未来へ
輝くふるさと
うと

contents

04 市概要 うとのコト

位置・面積, 交通アクセス, 地勢
市民憲章, 市民の歌, 市章, 市木, 市花, 市鳥

宇土の宝から日本の宝へ

06 宇土の雨乞い大太鼓

観る, 愉しむ, 食す。

08 宇土の魅力

because…

10 宇土市で暮らす

みんな無理をしない

12 ちょうどいい田舎暮らし

14 宇土市の田舎暮らし自慢

16 うと観光マップ

市長メッセージ

18 宇土市長 元松茂樹

19 “輝くふるさと”づくりの柱

震災復興, 教育・文化, 保健・福祉・医療
産業・経済, 生活環境・都市整備

2度の激震で被災

24 平成28年熊本地震

28 数字で見る宇土市のデータ

人口と世帯, 産業・経済, 財政, 市税
市民生活, 社会保障・福祉, 交通・火災・犯罪
子育て・教育, 指定文化財一覧

34 うとのアユミ



うとのコト

Uto City
Over View

宇土市概要

位置・面積

熊本県のほぼ中央部、熊本平野の南縁、有明海と八代海を二分する宇土半島の基部に位置し、半島のほぼ北半分を占めています。市域は東西20・4km、南北7・9kmと東西方向に長く、総面積は74・3km²です。北は熊本市、南は宇城市に隣接しています。

交通アクセス

九州を南北に縦貫する国道3号、宇土半島を東西に延びる国道57号、JR三角線の分岐点にあたり、県内における交通の要衝となっています。鉄道網はJR宇土駅から博多駅まで約50分、新大阪駅までは約3時間での移動が可能です。県都熊本市中心部から車で南へ約30分、九州自動車道松橋インターから北西へ約10分の距離です。

地勢

多種多様な海の生き物と広大な干潟という特徴を持つ有明海に面し、緑川下流部の平野と宇土半島に連なる山々に囲まれ、豊かな自然に恵まれています。なかでも、日本の名水百選に選ばれた「轟水源」や、日本の渚百選・日本の夕陽百選に選ばれた「御輿来海岸」は、



宇土市民憲章

昭和五十三年九月二十七日議決

- 一 わたくしたち宇土市民は
清潔な美しい町をつくりましょう
- 一 わたくしたち宇土市民は
教養と公德心を高めましょう
- 一 わたくしたち宇土市民は
健康で明るい町をつくりましょう
- 一 わたくしたち宇土市民は
感謝の心で社会につくしましょう
- 一 わたくしたち宇土市民は
仕事にはげみ豊かな町をつくりましょう

宇土市民の歌（市歌）

作詞・林田憲義／補作詞・作曲岩代浩一

- 一、朝来名の峰より明けて
有明の海はしずかに映ゆる
火の君の生まれしところ
美わしき土の香よ
はるかなる伝統
詩情の町われらの宇土市



本市のシンボルであり、優れた自然と宇土城跡や宇土の雨乞い大太鼓に代表される歴史的な文化遺産も数多く点在しています。中心市街地は「JR 宇土駅の西南側」一帯に広がっており、JR 宇土駅東側周辺は大規模商業施設が集積しています。

市章



市章は、平仮名の「う」「と」の文字を図案化したもので、円は「大和一致」を象徴し、両翼は市の飛翔発展を表しています。市民から募集し、応募約200点の中から決定しました。

市木 きんもくせい



きんもくせいは、常緑の小高木で、庭木三名木の一つに数えられています。葉は細長い円形で硬く、早秋には強い芳香を放つ橙色の小さな花をたくさん咲かせます。市制施行20周年を記念して市民から募集し決定しました。

(昭和53年10月制定)

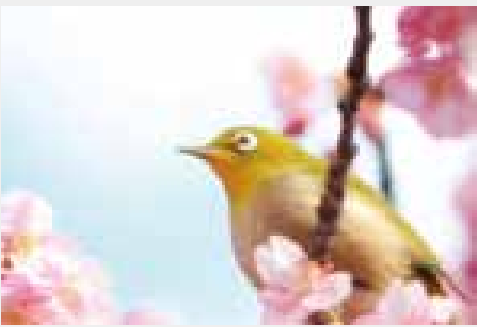
市花 あじさい



あじさいは、初夏の梅雨に咲く日本の代表的な花です。市民から募集し決定しました。住吉自然公園のイメージが浸透していたようで、応募数は85通中38通で一位。二位のツバキ5通を大きく上回りました。

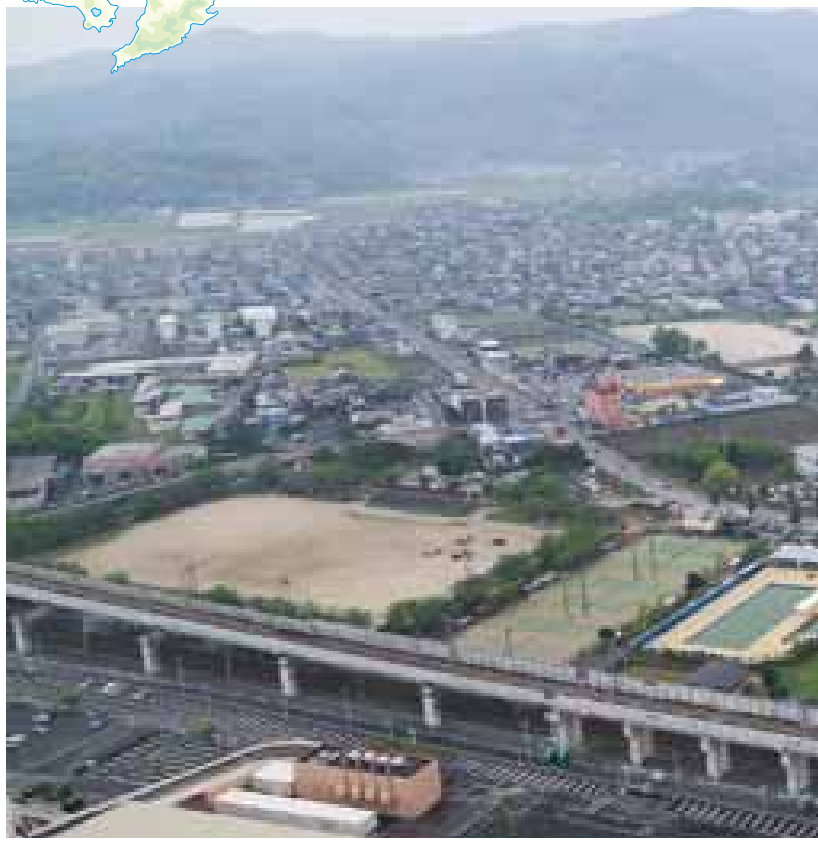
(平成7年3月制定)

市鳥 メジロ



メジロは、全長約12cmでスズメより小さく、日本全土に分布する日本の代表的な野鳥です。市民から募集し決定しました。応募数は85通中15通で、姿や鳴き声が市民に愛されていることから選ばれました。

(平成7年3月制定)



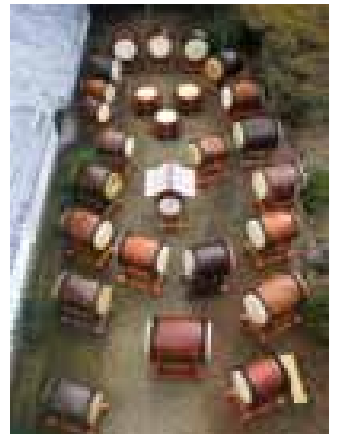
二、雁回山は父なる姿
 緑川永久に母なる守り
 澄みわたる空の下
 ひろがる大地のみりの
 みなぎる力
 豊かな町われらの宇土市

三、清らかな水はとどろき
 立岡の桜朝日に匂う
 あの丘にもこの道にも
 緑の風は光り
 満ちる幸福
 希望の町われらの宇土市

四、愛と和の希い掲げて
 つなぐ手と手に心はかよう
 たからかな歌声は
 建設の槌の音
 新らしき息吹
 伸びゆく町われらの宇土市

国重要有形民俗文化財

宇土の雨乞い大太鼓



国重要有形民俗文化財
「宇土の雨乞い大太鼓」
雨乞い大太鼓 29基
関連資料 28点

2017年3月3日、「宇土の雨乞い大太鼓」が国重要有形民俗文化財に指定されました。雨乞い大太鼓の国重要有形民俗文化財指定は全国初であり、熊本県の文化財が国重要有形民俗文化財に指定されるのは初めてのことです。

宇土の雨乞い大太鼓

宇土市では、夏の干天時の雨乞いを始め、田植え後のサナブリや八朔の豊年祭りなどの際に、大太鼓を担ぎ出して叩き、降雨や豊作を祈願する行事がおこなわれていました。これらの行事は、戦後の社会変動の中で多くがおこなわれなくなりましたが、今なお市内には29基の雨乞い大太鼓が残されています。

雨乞い大太鼓には、長胴太鼓とドラ太鼓の二種があります。

いずれも、ケヤキの太木をくり貫いて作られたもので、面径が1メートルを超えるものも多く、江戸時代から明治時代にかけて作られています。

長胴太鼓は、26基残されています。太鼓車と呼ばれる台車に載せたり、担い棒にくくり付けて担ぎ、横から叩く太鼓です。宇土の雨乞い大太鼓の大きな特徴である「木星」と呼ばれる多面体の飾りが太鼓の両縁に付きます。3基残されているドラ太鼓は、円形の枠が付いた台車に載せて、上から叩く太鼓です。

これらの大太鼓のほかに、太鼓の胴に掛ける油単と呼ばれる布や太鼓のバチ、担い棒や鉦や笛、太鼓の張替えの記録が分かる古文書なども関連資料として指定されています。

小泉八雲も見た宇土の太鼓

明治24年(1891)から3年間、熊本の第五高等学校(現熊本大学)に英語教師として赴任していた小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)が、明治26年の夏休みに長崎へ旅行し、三角(現宇城市)から熊本への帰途、道中での思い出を記した「夏の日の夢」という作品があります。この中で、宇土半島の海沿いを人力車に乗って帰るハーンは、裸の男が納屋で太鼓を叩く姿や大小さまざまな太鼓を目にし、太鼓を叩く音があちこちの村から聞こえてきたと書いています。



宇土大太鼓フェスティバル

各地区に残る大太鼓の復活に伴い、伝統文化の継承と地域活性化を目指して昭和61年(1986)に始まりました。毎年8月第1土曜日に開催されるフェスティバルには、各地区保存会による市中パレードや大太鼓の競演がおこなわれ、市内外からの多くの見物客で賑わいます。



宇土市大太鼓収蔵館

平成2~3年にふるさと創生事業の交付金を活用して太鼓の修復と大太鼓収蔵館を建設しました。館内では、雨乞い大太鼓に触れ、叩くことができます。

【所在地】宮庄町406番地2

【開館日時】9:00~16:30(月曜休館)

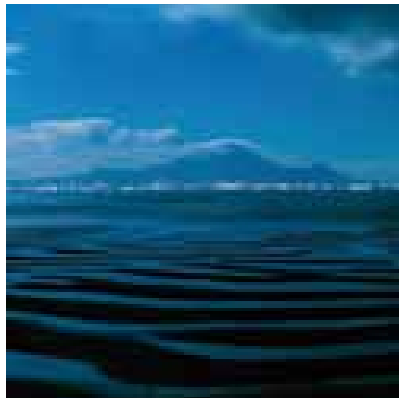
【入館料】高校生以上100円 小・中学生50円

雨乞い大太鼓を
見る・聞く・叩く



海苔網

水温が23度以下になる10月末、海苔の胞子が付いた牡蠣殻を吊るしたカラフルな海苔網が有明海の遠浅にパッチワークのように広がります。



御輿来海岸

有明海広しと言えども、潮が干くと三日月形の砂紋が現れるのはココのみ。夕日はもちろん、満月の夜も見頃。日本の渚百選。



長部田海床路

干満の差が大きい有明海で、干潮の時でも漁に出られるように作られた道路。焼酎のCMをきっかけに人気スポットに。



藤泉水道と轟水源

今も約100戸の人々が生活用水として利用する江戸時代に作られた国内現役最古の上水道。取水口の轟水源は昭和60年に”日本名水百選”に選定。



立岡自然公園

加藤清正公によって造られたと言われている立岡池と江戸末期に完成した花園池を中心とした自然公園。春には、約2,000本の桜が池を囲む県内有数の桜の名所。

観る、愉しむ、食す。 宇土の魅力



宇土の御獅子舞

5代宇土藩主細川興文が西岡神宮に獅子舞を奉納したのが始まり。約280年の歴史があり、県重要無形民俗文化財に指定されています。10月19日。



うと地藏まつり

肥後三大夏祭りの一つ。各地のお地藏さんを子どもたちが飾り奉ります。造りもんや花火大会、コンサート、民謡パレードも同時開催。8月23日、24日。



宇土大太鼓フェスティバル

毎年8月第1土曜日に開催される太鼓の競演。特に、国重要有形民俗文化財に指定された江戸時代から明治時代にかけて製作された大太鼓の共演は圧巻。



デコマリン

スイーツのような甘さと柑橘系特有の甘酸っぱさが絶妙。高級柑橘として人気があり、全国から注文が殺到します。旬は3月～4月。



網田ネーブル

100年以上の歴史を持つ網田ネーブル。甘い香りとスイーツのような甘さが特徴です。元宮内庁献上品。旬は1月～3月。



山王さんまつり

赤い着物に白い頬かぶり姿でサルに扮した若者たちが、互いに甘酒を奪い掛け合う奇祭です。約700年の歴史があります。旧暦11月の申の日に開催。



甲イカ

コリコリとした歯ごたえと甘みは、刺身や天ぷら、煮つけ、パスタなどにおすすめです。旬は1月～4月。



海苔

有明海を代表する特産物。磯の香り漂う味の良さと独特の光沢が食欲をそそります。軽く炙ってそのままはもちろん、加工品も絶品です。



アサリ

日本有数の遠浅を誇る有明海で生まれ育ったアサリです。キュッと引き締まった身は濃厚。2018年はアサリを使った加工品が「ウトブランド」で発売されました。



あじさいの湯

100%天然のアルカリ性単純泉。大浴場、サウナ、リフレッシュルーム、足湯を完備。日曜はマクロビオティックの健康ランチも登場します。



宇土マリーナ「おこしき館」

水揚げしたばかりの魚介類、網田ネーブルやデコマリン、旬の農産物が並ぶ物産館です。レストランでは四季折々の有明海の恵みが楽しめます。



小袖餅・うと餅

熊本の良質なもち米を使った一口サイズの小餅です。モチっとした中から、トロリとしたあんこが溶け出す宇土を代表する銘菓。

because...

宇土市で暮らす



花の名所

江戸時代に作られた池を取り囲むように約2000本の桜が咲き誇る立岡自然公園。山の斜面一帯がピンク色に染まるつじヶ丘公園。細川のお殿様が野点などを楽しんだ御殿跡の枝垂れ桜。幕末に作られた穴場的な甲岩自然公園の桜。3月下旬から4月初旬にかけて、宇土市には熊本県内屈指の桜の名所が至る所に点在しています。桜のシーズンが終わると、遊具や芝生広場が広がるつじヶ丘公園はつじで赤から白にかけてのグラデーションに染まり、轟水源側の菖蒲園や立岡自然公園には雅やかな紫色の肥後菖蒲が咲き誇り、梅雨のシーズンに入ると住吉自然公園をメインに、日本アジサイや西洋アジサイが市内各所を彩ります。

夏は海で

ゴールデンウィーク前後、有明海では宇土で生まれ育ったアサリやハマグリ如潮干狩りが楽しめます。夏本番になると、海の駅宇土マリナーで、古墳時代に、大王のひつぎを運んだ船を復元した古代船「海王」の試乗体験やレンタルボートでのアクティビティが楽しめます。

秋の絵巻

稲の穂が黄金色に染まりはじけると、1300年の歴史を持つ西岡神宮から囃子や銅鑼の音色が響き渡り、秋季大祭が行われます。江戸時代から続く御獅子舞をはじめ武者行列が街中を練り歩き、宇土市街が江戸時代にタイムスリップしたようになります。

世界に誇る

年が明けると、宇土が世界に誇る「御輿来海岸」のシーズンに突入です。

景行天皇が九州遠征の際に、あまりの美しさに御輿を停めてみられたことが地名の由来とも言われている「御輿来海岸」。波が沖に干いてゆくたびに、波と風によって、海底から現れる三日月形の砂模様。扇を広げたように幾重にも沖まで広がり、そこに夕日が重なると、オレンジ色から茜色そして藍色へと色が付けられ、まるで現代アートを見ているようです。近年では、インスタ映え人気も加わり、多い日は世界各国から約500人が訪れています。夕日と重なるベストシーズンは年間10日前後です。

ほどよく

熊本市内から車で約20分、JRで約10分の利便性の良さ、市街地には大型ショッピングセンターやホームセンター、家電量販店が数店舗隣接し、市立小中学校は熊本地震でもダメージを受けなかった耐震性完備です。

都会と田舎が融合した宇土市。田舎暮らし初心者にはほどよい田舎です。

宇土市に移住したファミリー

梅田さんファミリー

梅田 健太郎さん
美香さん
結布ちゃん
タケルくん
真緒ちゃん

みんな無理をしない ちようどいい田舎暮らし



健太郎さん窯から有明海を一望。普賢岳もよく見えます。

網田焼の里・網田地区

熊本市から車で約30分。宇土市の西部に位置する網田地区は、天草へ通じる国道57号を挟んで、有明海と里山が広がるのどかなエリアです。一步路地に入ると、築100年以上の古民家が並び、まるで、とりのトロロの世界に入り込んだような懐かしい景色が広がっています。

そんな網田地区を移住先として選んだのが陶芸家の梅田健太郎さんファミリーです。愛知県で生まれ育ち、学生時代を宇土市で過ごし、その後、陶芸家を志して唐津焼の里・佐賀県唐津市で修業。「陶芸家として独立を考えた時に、頭に浮かんだのが昔住んでいた網田の風景でした」。

かつては、藩御用窯として繊細な網田焼の産地だった同エリア。「今でも数件の窯元が点在し良質の土が取れ、のどかな景色に強く惹かれました」と梅田健太郎さん。

大阪から網田地区へ

一方、佐賀県で知り合った妻の美香さんは、生粋の大阪生まれの都会人。網田地区での暮らしは驚きの連続だったそうです。「想像していた以上の、田舎でした(笑)」と美香さん。

まず最初にびっくりしたのは古民家の古さでした。現代の生活では考えられないような間取

陶芸家として全国的に活躍する健太郎さん。個展などで県外への出張もしやすい土地



自然の野山は子ども達の一番の遊び場

りや造りをはじめ、何もかもが驚きの連続だったそうです。しかし、古いなりに良さはあると、暮らしに合わせてセルフリノベーションをしながら、驚きを楽しみに変えていった美香さん。出産して子育てをしてゆく中で、この地区の魅力を一つ二つと感ずるようになったそうです。



大阪出身の美香さん。「近所の方にたくさん助けられています」

地域ぐるみで子育て

「地区全体が見守ってくれ、子ども達を安心して遊ばせられるのは、すごく良かったです。小学校に上がると、今度は、地区の人が勉強や遊びを見てくれ、とても助かりました」と美香さん。誰もが子ども達に声をかけてくれたり、そっと軒先に畑で採れた野菜が置かれていたり…生活してゆくうちに、最初の驚きが温かさや感動に変わり、心地よいものになっていきました。そして、ショッピングや習い事は宇土市街や熊本市へ。宇土市街へは車で、熊本市へはJ.Rを使っ

たり。「不便さも便利さも程よく楽しめる場所ですね。子育て中でも、ちょっとした田舎暮らしができる場所だと思います」。

ちよつどいい田舎暮らし

健太郎さんは、海を望む小高い丘の古い農地を活用して窯を構えました。「ここから見える普賢岳の美しさは一番です！夕方は御輿来海岸を染める夕陽が楽しめ、夜には満点の星空が広がります。贅沢ですよね」と話す健太郎さん。

「誰も無理せず、むしろ豊かな心で過ごせる『ちよつどいい田舎暮らし』ができるのが宇土市だと思えます」。里山の中のびのびすくすく育つ結布ちゃん、タケル君、真緒ちゃんの成長を見守りながら、美香さんに手伝ってもらい陶芸に励んでいます。

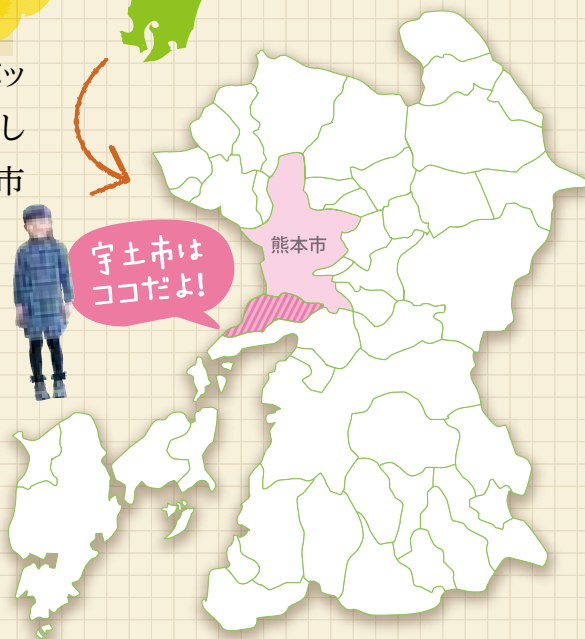


パパの仕事をみんなで手伝います！

政令指定都市・熊本市のすぐ隣

熊本市内から車で約 20 分, JR で 10 分少々。熊本市のベッドタウンとして, 近年注目を浴びている宇土市。田舎暮らしができるエリア「網田地区」からも車で約 30 分で熊本市に着きます。

KUMAMOTO



し自慢!

どんな魅力があるの?



いろんなところに遊びに行けて楽しい!

自慢・其ノ壱

熊本県の幹線道路が縦横に!

国道3号と国道57号、熊本の交通の要ともいえる2本の道路が走る宇土市。県内外各地へのアクセスが良好です。観光地として有名な天草や阿蘇、人吉へは約1時間半以内で行けます。

自慢・其ノ貳

JR アクセス抜群!

JR宇土駅を基点に、南北に鹿児島本線、西に三角線が走っています。レトロな観光列車「A列車で行こう!」などJR九州の観光列車も走ります。



自慢・其ノ参

教育環境万全!

13カ所の認可保育園、2カ所の市立幼稚園、7カ所の市立小学校、3カ所の市立中学校、さらに、県内で数少ない県立中高一貫教育校もあります。

県外に出るときも熊本馬場までアクセス良好なので便利です!



宇土市は『九州で8番目に住みやすい街』

東洋経済新報社調べ「住みよさランキング (2018年)」によると、宇土市は九州で8番目、熊本で2番目にランキングされました。

宇土マリーナ



食材が安くておいしいのは、とても助かっています!

海幸山幸美味快樂!
豊かな自然に恵まれ、海の幸と山の幸が豊富。「道の駅宇土マリーナ」では、いけすで泳いでいる魚をさばいてくれたり、地元産の朝摘み野菜、網田ネーブルやデコマリン(不知火)、メロンなどが揃います。

宇土市の



私達がお答えします!

田舎暮らし

宇土市ってどんな場所? 移住するのにそんな疑問にお答えします!

自慢・其ノ四

ショッピングシティー?

宇土市中心部には、「宇土シテイモール」や「クロス21UTTO」、「カインズ」などをはじめ、大型ショッピングスポットが充実しています。

自慢・其ノ伍



宇土シテイモール

自慢・其ノ六

絶景スポットが目の前に!

シーズン中は国内外から多くの人が訪れる御輿来海岸。夕陽が砂紋を染めるベストシーズンはため息が出る美しさです。幻想的な風景が日常生活の中に溶け込んでいます。

自慢・其ノ七

星が綺麗!

海が眼下に広がる山間の集落「網田地区」。街灯などの影響が少なく、宝石箱のような星空が頭上いっぱいに広がります。

特別粋

人が一番!

これが一番の自慢!!です。移住者を温かく迎え入れ、子どもを優しく見守ってくれるなど、住みやすい地域です。

この夕焼けは日本一! だと私は思っています!



御輿来海岸

UTO
SIGHTSEEING
MAP

観光マップ



歴史ある宇土の祭り

7

船場橋界限

(小西行長像)
大名小西行長

江戸時代の細川藩蔵屋敷跡



(距離/2.5km)

JR宇土駅から車で約2分 (距離/1.2km)

粟島神社春季大祭
ミニ鳥居くぐり

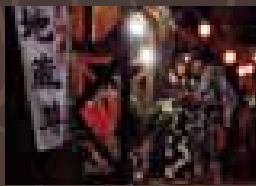
毎年3月開催 約370年の歴史



JR宇土駅から車で約6分 (距離/5.3km)

うと地蔵まつり

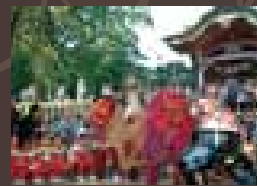
毎年8月開催 約370年の歴史



宇土駅~宇土中心街一带

西岡神社大祭
宇土御獅子舞

毎年10月開催 約280年の歴史



JR宇土駅から車で約4分 (距離/3.4km)

山王神社大祭
甘酒まつり

毎年12月開催 約700年の歴史



JR宇土駅から車で約5分 (距離/4.0km)

復興から発展へ 未来へ“輝くふるさと”宇土



宇土市長
元松 茂樹

宇土市は、戦後復興期から高度経済成長の過渡期にあった昭和33年10月に、県下で11番目の市として誕生し、平成30年10月1日に市制施行60周年を迎えました。

平成28年4月14日、16日に発生した熊本地震では、震度5強、6強というこれまでに経験したことがない激しい揺れに襲われ、甚大な被害が発生しました。この震災からの早期復旧・復興を実現させるために、被災者に寄り添い、震災前の状態を取り戻すための復旧と震災からの創造的復興に集中的に取り組んでいます。

一方で国では「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、地方創生に向けて大きく動き出したことにより、地域の特性を活かした独

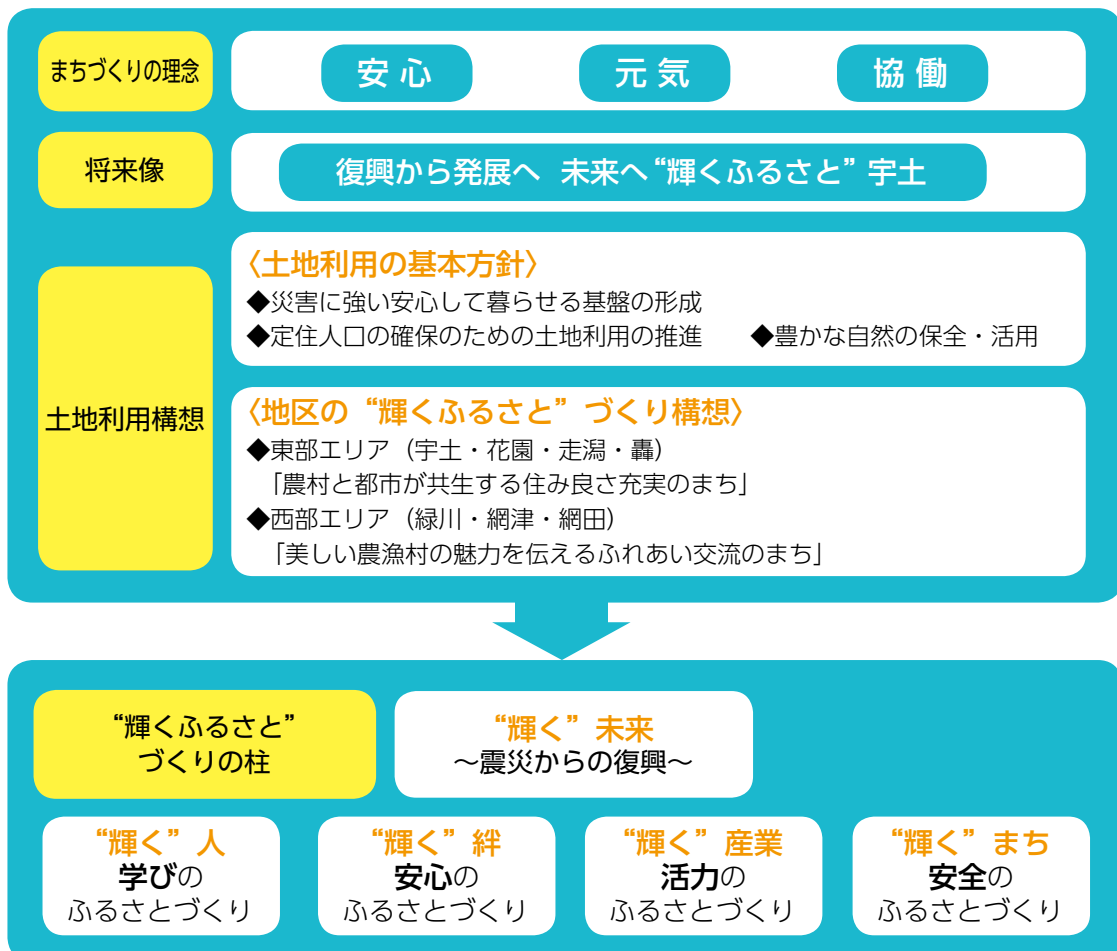
自の取組みを行うことが可能となりました。

少子高齢社会の到来、地球規模での環境問題の顕在化、経済社会のグローバル化や高度情報化の一層の進展、大規模災害への対応など、地方自治体を取り巻く経済・社会情勢も大きく変化しています。

そこで、時代の変化とともに多様化する市民ニーズへの確な対応を図り、市民や事業者、行政が協働でまちづくりに取り組むため、「震災からの早期の創造的復興」と将来も宇土市に住みたいと思われりるような「未来につながるまちづくり」を実現するために第6次宇土市総合計画を策定しました。

今後は、宇土市を震災前の状態に戻すべく復旧に向けて全力を挙げて取り組み、創造的復興を果すため、誰もが「宇土に住み続けたい」「宇土に住んでみたい」「宇土に戻りたい」と思えるような将来像「復興から発展へ未来へ“輝くふるさと”宇土」を築いていきたいと思います。

“輝くふるさと”宇土の未来図（基本構想全体図）





宇土市役所本庁舎跡地

震災復興

“輝く”未来 ～震災からの復興～

宇土市内の多くの地域で甚大な被害をもたらした熊本地震からの早期復旧・復興を実現するため、平成 28 年に「宇土市震災復興計画（第 1 期）」を策定し、市民と事業者、行政が総力を結集し一丸となって宇土市の復旧・復興を推進してきました。第 6 次宇土市総合計画では、「宇土市震災復興計画（第 1 期）」の指針を継承し、将来像の実現に向けて、迅速で効果的な災害から

の復旧に引き続き取り組むとともに、災害前よりも強い防災面を強化したまちづくりを進めるため、災害危険箇所に対する減災対策、震災・風水害に備えた防災拠点の整備・機能向上、防災施設・設備の充実を図ります。市民と事業者、行政が協働による災害に強いまちづくりを進めるため、自主防災組織などの結成・活動支援に取り組み、自助・共助・公助の連携を高めます。





教育・文化

“輝く”人 ～学びのふるさとづくり～

未来を担う子どもたちが、心身ともに豊かでたくましく、自立した人間として育つよう、「教育のまち（教育立市）」の理念に基づき、特色ある学校づくりを進めるとともに、家庭・地域・学校がそれぞれの役割を果たしながら連携することで、子どもたちの健全な育成に努めます。子どもたちが国際化・情報化社会に対応していく必要があることから、英語教育の推進や学校 ICT の整備を行い、教育環境の充実を図ります。さまざまな年

代・地域の市民が学び、ふれあい、自己実現ができる生涯学習の場づくりに努めるとともに、地域固有の歴史・文化を学び、未来へ継承するために、文化・芸術活動を推進します。また、地域社会の中で、すべての人の人権や個性が尊重される地域づくりに努めます。市民の健康の保持・増進を図るための生涯スポーツの普及を目指し、市民が日常的にスポーツに取り組み、心身ともに健康に暮らせるまちづくりに努めます。





保健・福祉・医療

“輝く”絆 ～安心のふるさとづくり～

市民一人ひとりが健やかに暮らせるまちを目指し、自発的・自立的に健康づくりに取り組み、健康寿命を延伸させることで、すべての人が生涯にわたって健やかで心豊かに生活しつづけることができるまちを目指します。子どもを安心して産み育てることができるまちを目指し、保育所や放

課後児童クラブの待機児童解消など、子育て環境を充実します。独居高齢者世帯の増加など高齢社会が進む中、高齢者や障がい者などが安心して暮らすために、地域での助けあいと支え合いによる地域福祉の強化と適正な社会保障・福祉サービスを提供できる環境づくりに努めます。





産業・経済

“輝く”産業 ～活力のふるさとづくり～

宇土市を支える産業の持続的発展を促進するために、引き続き企業誘致や地場産業の育成に努め、新たな雇用の創出や産業基盤の強化を図ります。商業については、空白地が増える中心市街地の新たな空き地・空き家活用を含めた活性化とともに、市外から多くの買い物客が訪れる商業集積地をもつ強みを生かした商業振興に努

めます。農林業・水産業については、担い手の育成・支援により、経営の安定性、生産性の向上に努めるとともに、農商工連携による特産品ブランドの開発や地産地消の拡大による産業振興を図ります。御輿来海岸など、地域の豊かな自然・歴史・資源を活かした観光開発を促進し、近隣市と連携した広域的な観光振興を図ります。





生活環境・都市基盤

“輝く”まち ～安全のふるさとづくり～

市民の安全・快適な生活を維持するため、JR宇土駅を軸とした公共交通体系、道路や上下水道などの生活基盤の整備、合併処理浄化槽設置の推進、公園や緑地などの適切な管理や景観保全に努めるとともに、既設の施設の長寿命化を図ることで、安全な生活基盤づくりに努めます。市民が住み慣れた地域で安全・安心に暮らせるよう、身近な地域での防災対策とあわせ、警察との連携により地域における防犯や交通安全に対する活動を推進し、増加する振り込め詐欺やネット犯

罪などの消費者トラブルについても消費生活センターを中心とした対策の強化に努めます。地球規模での環境保全に対する意識が高まる中、環境を守り、自然と共生するまちを目指し、豊かな自然環境を保全することの大切さを市民や事業者と共有し連携を図りながら、地域の環境保全活動を推進します。また、ごみの分別徹底の啓発をはじめとするごみの減量化・リサイクルを推進し、環境への負荷を減らした循環型社会の構築を目指します。



2度の激震で被災 本庁舎倒壊の恐れ



熊本地震前震発生（4・14）

H28・4・14 21時26分

震源 益城町（震源の深さ11km）
規模 マグニチュード6・5
震度 最大震度7 宇土市 震度5強

前震4・14発生後の対応

- ・4・14 22時 災害対策本部設置
（市役所別館2階会議室）
指定避難所を市内16箇所開設
（職員3人ずつ配置）
- ・避難者数 4・15 2時 13000人
18時 64人（帰宅により減）
- ・4・15は市役所業務一部停止。小・中学校（幼稚園）は休校（休園）決定。朝から職員が分担して市内を巡回し、被害状況を把握。（屋根瓦や外壁の損傷、水道漏水、道路クラック等）
- ・市役所本庁舎はガラス破損、壁面にクラック等があるが、すぐに崩壊につながるようなものはない。4・15まで立ち入り禁止とし、4・16（土）午後から片づけの予定とする

熊本地震本震発生（4・16）

H28・4・16 1時25分

震源 益城町・西原村（震源の深さ12km）
規模 マグニチュード7・3
震度 最大震度7 宇土市 震度6強
津波注意報 推測1m（有明・八代海）
※市役所本庁舎の4階、5階部分が損壊、倒壊の恐れ

本震4・16発生直後の対応

- ・余震がひどく建物内に留まれないため、市役所駐車場にテントを張って災害対策本部機能を移す。敷地内に災害ボランティアセンター（社協）開設
- ・本庁舎の書類、OA機器などは一切持ち出せず。使用可能な電話回線は1回線のみ。別館・福祉センターから持ち出せる備品等で対応
- ・電気は当初、延長コードで別館からつなぐ
- ・4・17からは総務省の移動電源車、国土交通省の照明車を借用して対応
- ・災害対策本部会議。4月中は1日3回（朝・昼・夕）開催。市幹部、国（国土交通省、防衛省・自衛隊）、県、警察・消防ほか会議回数は段階的に減少。11・1から警戒本部へ移行
- ・被害状況の調査・把握は市職員、消防団による市内巡回で実施
- 避難所・避難者数
 - ・避難所を市内15箇所に開設（職員配置）しグラウンドを開放（学校とグラウンドの照明はすべて点灯。安心感につながった）
 - ・ピーク時 4・16 20時 6455人
 - ・右記以外（推定） 自主避難所 2000
 - ・4000人、車内退避 10000人
 - ・避難所への物資配給備蓄品（保存水・保存食 8000食分）は、1日で枯渇
- 上水道断水の応急復旧
 - ・本震直後は市内約9割のエリアで断水（上水道区域は全域で断水）。復旧工事と自衛隊と市水道事業者による給水活動（市内3〜10箇所）。4・23日には全域断水なしの状態に回復



■仮設トイレの設置

- ・避難所ではトイレが不足。市内の事業者から仮設トイレ15台、国土交通省（九州地方整備局）から15台の計30台提供あり。指定避難所と市民広場・市民体育館前等に分配して設置

■防災行政無線の応急対応

- ・4・16～4・28自衛隊による炊き出し。（市民体育館前）食材等の確保はJAが協力
- ・防災行政無線は操作卓が市役所本庁舎2階放送室にあるため使用できず。別の場所にある広域連合消防本部の無線から遠隔操作で対応。（録音放送等の機能は使えず、職員が24時間交代体制で常駐し、生放送で情報伝達）

- ・市内80箇所に設置したスピーカーから市全域に放送する重要な市民への情報伝達手段。本庁舎2階放送室にある操作卓に異常が生じた場合、広域連合消防本部からの放送も不可となるため、緊急な対応が必要となった
- ・応急対応として、代替の操作卓を備蓄倉庫の中に整備。震災前から、H28年度に防災行政無線デジタル化整備を行う計画であったため、あわせて整備を進めた。

■災害ごみ（被災家屋の公費解体分含む）

H28年度 処理量 41000トン
 処理費用23億6800万円

- ・発災後、一次仮置場としてごみ処理施設構ร่างラウンドを設定。瓦・コンクリートブロック・木材・家具等々を仮置き。燃えるごみは直接焼却施設へ持ち込み
- ・仮置場の道路に渋滞発生
- ・（災害ごみ減免申請の方法変更）仮置場のグラウンドは10日程で満杯状態。

- ・民間の木質チップ処理工場の一部を借り対応
- ・分別作業員の配置（業務委託）とボランティアによる分別作業。（指定のごみ以外や災害ごみ以外も含まれていた）

■市役所機能・拠点

- ・4・19、市役所機能と物資集積拠点を市民体育館へ移転。本庁舎倒壊の恐れがあり、本庁舎横の別館・福祉センターは使用できず
- ・支援物資の集積もテント周辺で行っていたが、搬入が多くなってきた
- ・市民体育館内に住民票・税証明等発行と罹災証明書申請の窓口を設置。災害対応業務のみ行い、その他の通常業務は停止
- ・4・20電話回線12回線となるも内線なし。
- ・4・21職員用パソコン10台のみ
- ・5・10通常業務再開。リースの長机とパイプ椅子で課毎のスペース割り当て。1課に内線電話1台とパソコン1台を割り当て。経済部・建設部は下水処理場会議室へ

災害ごみ受入状況

受入れ期間	延日数	受入れ台数
1期 4.15～4.24	10	5,258
2期 4.25～5.15	21	11,506
3期 5.21～5.31	11	1,659
4期 6.10～6.19	10	757
5期 6.22～6.30	9	646
6期 7.04～7.10	7	363
7期 7.18～7.24	7	445
8期 8.05～8.10	6	261
9期 9.12～9.19	8	199
10期 10.24～10.30	7	190
11期 12.05～12.11	7	163
合計	103	21,447



熊本地震による被害(H31・2・13現在)
人的被害
 死者10人、行方不明者0人、重傷者24人、
 軽傷者18人
 (地震による直接死亡なし。災害関連死)

■住家被害
 罹災証明認定件数 住家 62210棟
 (全壊116棟、大規模半壊・半壊
 1750棟、一部損壊4344棟)

■道路(106箇所の災害復旧事業)

- 市内各所で道路の沈下、舗装陥没、橋脚破損、路面破損等がみられた。国道と県道は応急補修で早期に復旧。市道の一部にしばらくの間、通行止め区間有
- 中央線高架陸橋の橋脚に大きな破損。国交省 緊急災害対策派遣隊(TEC, FORCE)による調査。H28・8月下旬に復旧

■河川(36箇所の災害復旧事業)

- 船場川、大坪川、飯塚川等で護岸崩壊、築堤破損等の被害
- 公共施設(大きな被害があった施設)
 ・市役所本庁舎の4階と5階部分が崩れ倒壊の危険あり
- ・網津支所は屋根の破損や柱の傾斜あり
- ・老人福祉センターは屋根と外壁、窓の破損等

- ・中央公民館は外壁が大きく剝離。危険性あり
- ・市民会館は大ホール天井部の損傷
- ・武道館は天井崩落、ガラス割れ等
- ・市営入地団地は1棟1階のピロティ柱が破損、集会所建具・壁破損
- ・文化財関連は船場橋の欄干落下、井戸覆屋の基礎すれ

■避難指示(花園台町の一部)

- 市東部に位置する新興住宅地の花園台町では、広範囲にわたり地面に亀裂が発生し、複数の家屋で傾斜や敷地のズレ、目

地の開きが確認された

- ・4・18 10時花園台町の一部に避難指示72世帯99人(一般14世帯41人・高齢者施設2施設58人)一部解除や世帯人数の訂正等があり。復旧工事完了につきH31・1・31にすべての指示を解除

■避難指示(神馬町の一部)

- ・神馬団地では高台の擁壁に沿うような形で、家の敷地に亀裂が発生、ブロック積擁壁の亀裂や目地押し出し、L字型擁壁の前傾や目地の開きが確認された
- ・4・21 18時50分神馬町の一部に避難指示。9世帯19人。一部解除あり。復旧工事完了につきH31・2・22にすべての指示を解除

■豪雨災害による被害

- ・6・20~6・21未明にかけて最大時間雨量136ミリの豪雨が発生。記録的短時間大雨情報が発表された。特に市西部地域で河川の氾濫や土砂災害が発生

■人的被害(H29・8・10現在) ※確定

- 死者2人(二次災害による直接死) 軽傷者1人

■住家被害(H29・8・10現在) ※確定

- 罹災証明認定件数 住家 274棟
 (全壊3棟、大規模半壊10棟、半壊58棟、床上浸水101棟、床下浸水102棟)
 ※囑託員調査は床下浸水440世帯あり

■その他の被害

- ・道路や家屋・建物への土砂流入、河川の土砂堆積、がけ崩れ多数発生
- ・農地・農作物や農業機械・海苔養殖機械等に甚大な被害

■避難指示(三蔵・扇谷地区)

- ・山間地の道路ががけ崩れにより寸断。集落が孤立化。ため池決壊のおそれ
- ・6・23 正午 14世帯25人。一部解除後8世帯12人。道路の復旧後、7・21に解除となった



避難所

■避難所受け入れ

- ・ H28・9 末で受け入れ終了
- ・ 仮設住宅完成までの入居待ち4人除く。仮設住宅完成後10・19に退所され、すべての避難所が閉鎖となる

■避難所運営

- ・ 発災当初は市職員で対応し、4・19より他自治体からの応援職員による運営へ移行。(長崎県派遣チーム・沖縄県派遣チーム・千葉県柏市・奈良県奈良市・鹿児島県日置市・佐賀県鳥栖市・上天草市)
- ・ 6月下旬から民間委託へ段階的に移行

■避難所環境

- ・ 昼やプライバシーに配慮した間仕切り(パーティション)を設置
- ・ 昼は4・25より設置。全国490店の昼店が参加する「5日で5000枚の約束プロジェクト実行委員会」から無償で計13000枚の提供あり
- ・ パーティションは4・28より設置。県を通じての支援物資
- ・ 5・15より昼・夕の弁当配食を開始
- ・ 6・10までに、各避難所に冷蔵庫・洗濯機・エアコンを配備完了

救援物資

- ・ 発災から3日間、避難所への配給物資が大幅に不足。水や食糧、ミルク、おむつ等が水道断水や交通網寸断の影響を受ける

■救援物資の受入・配給等

- ・ 県からの物資到着は、初回4・17夜。(コンビニ提供のおにぎり他)
- ・ 4・16災害時の物資供給協定で製パン会社から大量のパンの提供。民間からの物資は4・16午後から届き始め、4・18以降、本格的になる

- ・ 4・19以降、ボランティアによる仕分け・配給作業が本格化。流通が回復するまで拠点配給・出張配給を実施

- ・ 4・20夜以降、大量の救援物資が到着。夜間の受け入れ制限。(昼はボランティアで荷下ろし・仕分けができたが、夜間対応が困難)

人的支援

■他自治体からの支援

- ・ 90を超える団体から業務応援があり、延べ7000人を超える。九州知事会・全国市長会等の応援による支援や独自に支援を頂いた自治体も。(避難所運営、家屋調査、罹災証明・住宅支援等の窓口、保健師、土木・建築等)

■ボランティアセンター

- ・ 延べ3226人のボランティアの方々協力をしていただき、救援物資の運搬・配給、被災家屋の片づけ、災害ごみの分別等を行って頂いた。ボランティアセンター以外でも、民間のボランティア団体による活動が相当数あった

庁舎機能

■市役所本庁舎解体前

- ・ H28・8・8より仮設庁舎で業務開始
- ・ 市民体育館内(総務部・企画部・市民環境部・健康福祉部・会計課・監査事務局)・市民会館内(議会事務局)で行っていた業務を移転
- ・ 教育委員会・企画棟はそのまま利用
- ・ 建設部・経済部は、下水道終末処理場の会議室を利用

■市役所本庁舎解体後

- ・ H29・4より配置換え。建設部・経済部は、庁舎敷地内の福祉センター・企画棟内へ移転

産業・経済

■産業別就業者の割合（国勢調査：各年10月1日現在）

産業別	平成17年度		平成22年度		平成27年度		
	就業者数	構成比	就業者数	構成比	就業者数	構成比	
1次産業	農業	1,622	8.9%	1,347	7.8%	1,227	7.1%
	林業	17	0.1%	15	0.1%	17	0.1%
	漁業	559	3.1%	454	2.6%	382	2.2%
2次産業	鉱業	8	0.1%	—	—	—	—
	鉱業、採石業、砂利採取業	—	—	3	0.1%	1	0.1%
	建設業	1,648	9.1%	1,381	8.0%	1,458	8.4%
	製造業	3,035	16.7%	2,661	15.3%	2,508	14.5%
3次産業	電気・ガス・熱供給・水道業	81	0.4%	91	0.5%	91	0.5%
	情報通信業	143	0.8%	173	1.0%	186	1.1%
	運輸業	831	4.6%	—	—	—	—
	運輸業、郵便業	—	—	861	5.0%	859	4.9%
	卸売・小売業	3,400	18.7%	3,182	18.3%	3,160	18.2%
	金融・保険業	249	1.4%	246	1.4%	260	1.5%
	不動産業	70	0.4%	—	—	—	—
	不動産・物品賃貸業	—	—	152	0.9%	191	1.1%
	学術研究、専門・技術サービス業	—	—	432	2.5%	376	2.2%
	飲食店、宿泊業	616	3.4%	—	—	—	—
	宿泊、飲食サービス業	—	—	741	4.3%	705	4.1%
	生活関連サービス、娯楽業	—	—	737	4.2%	718	4.1%
	医療、福祉	1,936	10.7%	2,252	13.0%	2,691	15.5%
	教育、学習支援業	739	4.1%	774	4.5%	736	4.2%
	複合サービス業	244	1.3%	163	0.9%	213	1.2%
	サービス業（他に分類されないもの）	2,156	11.9%	843	4.8%	868	5.0%
	公務（他に分類されないもの）	718	3.9%	657	3.8%	665	3.8%
分類不能の産業	64	0.4%	173	1.0%	32	0.2%	
合計	18,136	100%	17,338	100%	17,344	100%	

■販売農家数の推移（農林業センサス：各年2月1日）

	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
専業	367戸	370戸	306戸	315戸	311戸
第1種兼業	312戸	234戸	214戸	176戸	115戸
第2種兼業	757戸	688戸	511戸	395戸	341戸

■産業中分類事業所数・従業者数・製造品出荷額の推移（工業統計調査）

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
事業所数	50	55	57	56	54
従業者数	2,194人	1,756人	2,361人	2,317人	2,251人
出荷額	736億円	501億円	729億円	794億円	786億円

■商店数・従業者数・年間商品販売額の推移（商業統計調査：各年7月1日）

	平成6年	平成9年	平成14年	平成19年	平成26年
商店数	462	437	468	434	318
従業者数	2,437人	2,778人	3,071人	2,908人	2,308人
販売額	507億円	629億円	588億円	544億円	689億円

人口と世帯

■人口と世帯数の推移 (各年 3 月 31 日現在, 住民基本台帳を基にした参考値)

年	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
世帯数	14,494 戸	14,693 戸	14,902 戸	14,904 戸	15,040 戸
人口	37,967 人	37,927 人	37,781 人	37,442 人	37,340 人

■男女別年齢別人口 (平成 30 年 3 月 31 日現在, 住民基本台帳を基にした参考値)

年齢区分	男	女	年齢区分	男	女	年齢区分	男	女
100 歳以上	3 人	29 人	65 歳～69 歳	1,364 人	1,424 人	30 歳～34 歳	959 人	1,013 人
95 歳～99 歳	30 人	158 人	60 歳～64 歳	1,182 人	1,230 人	25 歳～29 歳	813 人	792 人
90 歳～94 歳	150 人	474 人	55 歳～59 歳	1,295 人	1,293 人	20 歳～24 歳	807 人	844 人
85 歳～89 歳	416 人	791 人	50 歳～54 歳	1,181 人	1,207 人	15 歳～19 歳	999 人	952 人
80 歳～84 歳	724 人	1,021 人	45 歳～49 歳	1,158 人	1,231 人	10 歳～14 歳	949 人	874 人
75 歳～79 歳	859 人	1,106 人	40 歳～44 歳	1,176 人	1,173 人	5 歳～9 歳	917 人	890 人
70 歳～74 歳	1,032 人	1,147 人	35 歳～39 歳	1,053 人	1,091 人	0 歳～4 歳	792 人	741 人
						合計	17,859 人	19,481 人

※ 65 歳以上の人口: 10,728 人 (高齢化率: 約 28.7%)

■地区別人口, 世帯数, 面積 (平成 30 年 3 月 31 日現在, 住民基本台帳を基にした参考値)

地区	人口	世帯数	面積
宇土	13,370 人	5,421 戸	3.93km ²
花園	9,900 人	3,911 戸	11.31km ²
轟	3,056 人	1,214 戸	7.94km ²
緑川	2,241 人	872 戸	9.08km ²
網津	3,389 人	1,401 戸	15.79km ²
走潟	2,096 人	792 戸	4.29km ²
網田	3,288 人	1,429 戸	21.96km ²
合計	37,340 人	15,040 戸	74.30km ²

■人口動態

▽自然動態 (出生・死亡)

年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
出生	315 人	300 人	304 人	284 人	271 人
男	155 人	150 人	151 人	143 人	144 人
女	160 人	150 人	153 人	141 人	127 人
死亡	385 人	340 人	394 人	410 人	408 人
男	197 人	168 人	208 人	197 人	200 人
女	188 人	172 人	186 人	213 人	208 人
増減	-70 人	-40 人	-90 人	-126 人	-137 人

▽社会動態 (転入・転出)

年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
転入	1,524 人	1,491 人	1,601 人	1,523 人	1,641 人
男	753 人	749 人	810 人	706 人	789 人
女	771 人	742 人	791 人	817 人	852 人
転出	1,437 人	1,491 人	1,657 人	1,797 人	1,589 人
男	696 人	781 人	809 人	897 人	752 人
女	741 人	710 人	848 人	900 人	837 人
増減	87 人	0 人	-56 人	-274 人	52 人

■国勢調査世帯数・人口等の推移 (各年 10 月 1 日現在)

年次	世帯数	人口			年齢割合			1 世帯当たり人員
		総数	男	女	0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上	
昭和 45 年	7,418 戸	31,327 人	14,741 人	16,586 人	25.2%	65.0%	9.7%	4.2 人
昭和 50 年	7,929 戸	31,564 人	14,973 人	16,591 人	23.5%	65.3%	11.1%	4.0 人
昭和 55 年	8,713 戸	32,954 人	15,721 人	17,233 人	21.9%	65.9%	12.2%	3.8 人
昭和 60 年	9,128 戸	33,575 人	16,009 人	17,566 人	20.9%	65.8%	13.3%	3.7 人
平成 2 年	9,514 戸	33,390 人	15,858 人	17,532 人	18.8%	65.8%	15.4%	3.5 人
平成 7 年	10,400 戸	35,010 人	16,677 人	18,333 人	17.4%	64.6%	18.0%	3.4 人
平成 12 年	11,618 戸	37,255 人	17,802 人	19,453 人	16.7%	63.2%	20.1%	3.2 人
平成 17 年	12,336 戸	38,023 人	18,120 人	19,903 人	15.7%	62.2%	22.1%	3.1 人
平成 22 年	12,808 戸	37,727 人	18,010 人	19,717 人	14.7%	60.7%	24.7%	2.9 人
平成 27 年	13,285 戸	37,026 人	17,679 人	19,347 人	14.1%	58.0%	27.9%	2.8 人

■平成 29 年度一般会計決算内容

歳入

区分	決算額	構成比
地方税	3,974,388 千円	17.0%
地方譲与税	144,407 千円	0.6%
利子割交付金	6,037 千円	0.0%
配当割交付金	8,429 千円	0.0%
株式等譲渡所得割交付金	12,133 千円	0.1%
地方消費税交付金	640,308 千円	2.7%
ゴルフ場利用税交付金	10,220 千円	0.0%
自動車取得税交付金	35,444 千円	0.2%
地方特例交付金	19,163 千円	0.1%
地方交付税	4,135,618 千円	17.6%
交通安全対策特別交付金	4,716 千円	0.0%
分担金・負担金	273,936 千円	1.2%
使用料・手数料	247,570 千円	1.1%
国庫支出金	4,684,834 千円	20.0%
都道府県支出金	2,328,074 千円	10.0%
財産収入	9,433 千円	0.0%
寄附金	296,411 千円	1.2%
繰入金	1,632,010 千円	6.9%
繰越金	738,763 千円	3.2%
諸収入	669,876 千円	2.9%
地方債	3,563,053 千円	15.2%
歳入合計	23,434,823 千円	100.0%

歳出

区分	決算額	構成比
議会費	171,927 千円	0.8%
総務費	3,476,317 千円	15.6%
民生費	6,953,887 千円	31.2%
衛生費	3,277,824 千円	14.7%
農林水産業費	1,259,143 千円	5.7%
商工費	313,701 千円	1.4%
土木費	824,961 千円	3.7%
消防費	844,716 千円	3.8%
教育費	1,553,061 千円	7.0%
災害復旧費	1,982,892 千円	8.9%
公債費	1,622,750 千円	7.2%
その他	0 千円	0.0%
歳出合計	22,281,179 千円	100.0%

■市債・基金等

年度	市債	基金	実質公債費比率	将来負担比率
平成 25 年度	166 億 9,571 万円	40 億 4,295 万円	12.3%	52.9%
平成 26 年度	163 億 1,891 万円	43 億 2,336 万円	10.3%	40.9%
平成 27 年度	159 億 2,188 万円	46 億 9,649 万円	9.5%	33.7%
平成 28 年度	176 億 4,295 万円	49 億 8,946 万円	9.8%	35.6%
平成 29 年度	197 億 2,799 万円	53 億 9,986 万円	9.4%	29.5%

市税

■市税の推移

科目	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
市民税	1,590,807 千円	1,677,539 千円	1,730,180 千円	1,701,190 千円	1,572,846 千円	1,733,955 千円
固定資産税	1,740,407 千円	1,770,561 千円	1,839,099 千円	1,811,924 千円	1,836,539 千円	1,885,603 千円
軽自動車税	85,151 千円	87,917 千円	91,735 千円	94,461 千円	109,172 千円	115,673 千円
市たばこ税	231,585 千円	254,161 千円	255,510 千円	250,318 千円	248,394 千円	239,157 千円
合計	3,647,950 千円	3,790,198 千円	3,916,524 千円	3,857,893 千円	3,766,951 千円	3,974,388 千円

財政

■会計別当初予算額※平成 30 年度は骨格予算のため 6 月補正後の予算額

会計別		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
		予算額	構成比	予算額	構成比	予算額	構成比
一般会計		14,990,000 千円	56.4%	20,720,000 千円	63.7%	17,418,887 千円	61.1%
特別会計	国民健康保険特別会計	5,430,433 千円	20.4%	5,559,619 千円	17.1%	4,756,563 千円	16.7%
	簡易水道事業特別会計	106,282 千円	0.4%	90,459 千円	0.3%	116,620 千円	0.4%
	北段原土地区画整理事業特別会計	1 千円	0.0%	1 千円	0.0%	1 千円	0.0%
	介護保険特別会計	3,372,438 千円	12.7%	3,485,013 千円	10.7%	3,524,219 千円	12.3%
	漁業集落排水施設整備事業特別会計	31,284 千円	0.1%	29,626 千円	0.1%	29,824 千円	0.1%
	後期高齢者医療特別会計	398,771 千円	1.5%	402,013 千円	1.2%	421,671 千円	1.5%
	入学準備祝金給付基金特別会計	1,360 千円	0.0%	1,310 千円	0.0%	1,310 千円	0.0%
公営企業会計	水道事業会計	627,361 千円	2.4%	637,363 千円	2.0%	631,048 千円	2.2%
	公共下水道事業会計	1,608,817 千円	6.1%	1,596,170 千円	4.9%	1,616,986 千円	5.7%
合計		26,566,747 千円	100.0%	32,521,574 千円	100.0%	28,517,129 千円	100.0%

■平成 30 年度一般会計歳入歳出当初予算額

歳入

区 分	予算額	構成比
市税	3,827,905 千円	22.0%
地方譲与税	143,701 千円	0.8%
利子割交付金	3,300 千円	0.0%
配当割交付金	6,500 千円	0.0%
株式等譲渡所得割交付金	8,400 千円	0.1%
地方消費税交付金	616,000 千円	3.5%
ゴルフ場利用税交付金	9,100 千円	0.1%
自動車取得税交付金	38,400 千円	0.2%
地方特例交付金	21,100 千円	0.1%
地方交付税	3,833,168 千円	22.0%
交通安全対策特別交付金	5,500 千円	0.0%
分担金及び負担金	244,948 千円	1.4%
使用料及び手数料	247,197 千円	1.4%
国庫支出金	2,796,481 千円	16.1%
県支出金	1,826,218 千円	10.5%
財産収入	6,538 千円	0.0%
寄附金	200,288 千円	1.2%
繰入金	1,549,495 千円	8.9%
繰越金	1 千円	0.0%
諸収入	323,247 千円	1.9%
市債	1,711,400 千円	9.8%
合計	17,418,887 千円	100.0%

歳出

区 分	予算額	構成比
議会費	176,193 千円	1.0%
総務費	2,464,284 千円	14.1%
民生費	6,831,558 千円	39.3%
衛生費	924,493 千円	5.3%
農林水産業費	927,465 千円	5.3%
商工費	294,848 千円	1.7%
土木費	1,341,854 千円	7.7%
消防費	604,743 千円	3.5%
教育費	1,308,893 千円	7.5%
災害復旧費	800,670 千円	4.6%
公債費	1,713,885 千円	9.8%
諸支出金	1 千円	0.0%
予備費	30,000 千円	0.2%
合計	17,418,887 千円	100.0%

■会計別決算額

会計別	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
一般会計	15,435,423 千円	14,834,327 千円	19,485,647 千円	18,396,884 千円	23,434,823 千円	22,281,179 千円
特別会計	9,453,359 千円	9,349,075 千円	9,355,663 千円	9,160,861 千円	9,662,768 千円	9,454,739 千円
企業会計	1,834,583 千円	2,102,096 千円	1,795,322 千円	2,121,870 千円	1,876,932 千円	2,097,329 千円
合計	26,723,365 千円	26,285,498 千円	30,636,632 千円	29,679,615 千円	34,974,523 千円	33,833,247 千円

子育て・教育

■保育所入所児童数の状況 (子育て支援課：各年3月1日現在)

年度	市内私立			市外委託		合計
	保育所数	定員数	入所児童数 (受託児含む)	保育所数	入所児童数	入所児童数 (受託児含む)
平成25年度	13所	1,030人	1,147人 (1,177人)	16所	27人	1,174人 (1,203人)
平成26年度	13所	1,080人	1,208人 (1,236人)	12所	20人	1,228人 (1,256人)
平成27年度	13所	1,140人	1,252人 (1,276人)	12所	16人	1,268人 (1,292人)
平成28年度	15所	1,171人	1,236人 (1,247人)	11所	18人	1,254人 (1,275人)
平成29年度	15所	1,171人	1,315人 (1,339人)	15所	32人	1,347人 (1,371人)

■幼稚園の状況 (学校教育課：各年5月1日現在)

年度	園数	学級数	在園者数		
			男	女	計
平成26年度	2園	11学級	107人	110人	217人
平成27年度	2園	11学級	109人	115人	224人
平成28年度	2園	11学級	99人	113人	212人
平成29年度	2園	10学級	89人	96人	185人
平成30年度	2園	10学級	87人	86人	173人

■小学校の状況 (学校教育課：各年5月1日現在)

年度	学校数	教員数	学級数	児童数			1学級当たり 児童数
				男	女	計	
平成26年度	7校	147人	91学級	1,116人	1,050人	2,166人	23.8人
平成27年度	7校	148人	90学級	1,125人	1,018人	2,143人	23.8人
平成28年度	7校	145人	93学級	1,116人	1,042人	2,158人	23.2人
平成29年度	7校	150人	95学級	1,107人	1,079人	2,186人	23.0人
平成30年度	7校	152人	96学級	1,096人	1,055人	2,151人	22.4人

■中学校の状況 (学校教育課：各年5月1日現在)

年度	学校数	教員数	学級数	児童数			1学級当たり 児童数
				男	女	計	
平成26年度	3校	87人	36学級	545人	495人	1,040人	28.9人
平成27年度	3校	90人	36学級	513人	470人	983人	27.3人
平成28年度	3校	85人	33学級	490人	465人	955人	28.9人
平成29年度	3校	84人	34学級	495人	459人	954人	28.1人
平成30年度	3校	83人	33学級	507人	466人	973人	29.5人

指定文化財一覧

■国指定

種別	名称	所在地	指定年月日	備考
記念物 (史跡)	宇土城跡 (西岡台)	神馬町	S54.3.12	
重要文化財 (考古資料)	肥後向野田古墳出土品	浦田町	S54.6.6	宇土市立図書館
重要民俗文化財 (有形)	宇土の雨乞い大太鼓関連資料	宮庄町	H29.3.3	大太鼓収蔵館

■登録

種別	名称	所在地	指定年月日	備考
建造物 (交通)	JR 三角線網田駅本屋	下網田町	H26.12.19	

■県定

種別	名称	所在地	指定年月日	備考
記念物 (史跡)	仮又古墳	恵塚町	S57.8.28	
// (史跡)	榎崎古墳	花園台町	S50.11.11	
// (史跡)	網田焼窯跡	上網田町	S51.2.12	
// (天然記念物)	栗崎の天神樟	栗崎町	S44.3.20	
有形文化財 (彫刻)	木造釈迦如来坐像, 木造阿弥陀如来坐像, 木造薬師如来坐像	岩古曾町	S44.3.20	如来寺
民俗文化財 (無形)	宇土の御獅子舞	本町1丁目	S36.6.26	

市民生活

■公共下水道の概況 (上下水道課：各年 3月 31日現在)

年度	行政区域内	処理区域内	普及率
	人口 (A)	人口 (B)	(B/A)
平成 25 年度	38,006 人	27,457 人	72.2%
平成 26 年度	37,927 人	27,704 人	73.0%
平成 27 年度	37,781 人	27,754 人	73.5%
平成 28 年度	37,442 人	27,740 人	74.1%
平成 29 年度	37,340 人	27,866 人	74.6%

■ごみ処理状況 (環境交通課：各年 3月 31日現在)

年度	処理戸数	収集量	処理区分別			1日平均 処理量
			燃えるごみ	燃えないごみ	資源ごみ	
平成 25 年度	14,458 戸	10,611t	7,825t	570t	2,216t	29.07t
平成 26 年度	14,693 戸	10,851t	7,897t	854t	2,100t	29.73t
平成 27 年度	14,902 戸	10,736t	8,024t	802t	1,910t	29.41t
平成 28 年度	14,905 戸	11,725t	9,335t	1,094t	1,296t	32.12t
平成 29 年度	15,040 戸	10,779t	8,831t	589t	1,359t	29.53t

社会保障・福祉

■生活保護受給状況 (福祉課：各年 3月 31日現在)

年度	受給延数		支給総額
	世帯数	人員	
平成 25 年度	2,851 世帯	3,657 人	442,231 千円
平成 26 年度	3,225 世帯	4,253 人	531,516 千円
平成 27 年度	3,611 世帯	4,717 人	587,390 千円
平成 28 年度	3,690 世帯	4,654 人	631,426 千円
平成 29 年度	3,771 世帯	4,616 人	599,665 千円

交通・火災・犯罪

■交通事故状況 (環境交通課：各年 12月 31日現在)

年	発生件数	負傷者数	死者数
平成 26 年	159 件	226 人	3 人
平成 27 年	127 件	190 人	4 人
平成 28 年	121 件	161 人	0 人
平成 29 年	134 件	175 人	1 人
平成 30 年	128 件	188 人	3 人

■火災件数 (危機管理課：各年 12月 31日現在)

年	発生件数	建物火災	その他火災
平成 26 年	22 件	14 件	8 件
平成 27 年	13 件	7 件	6 件
平成 28 年	10 件	2 件	8 件
平成 29 年	22 件	10 件	12 件
平成 30 年	12 件	1 件	11 件

■犯罪認知件数 (熊本県警：各年 12月 31日現在)

年	認知件数	強制わいせつ	空き巣	自動車盗	オートバイ盗	自転車盗	車上ねらい	万引き
平成 26 年	132 件	4 件	7 件	2 件	9 件	62 件	14 件	34 件
平成 27 年	126 件	1 件	9 件	1 件	4 件	45 件	25 件	41 件
平成 28 年	87 件	1 件	7 件	2 件	5 件	35 件	13 件	24 件
平成 29 年	82 件	2 件	4 件	0 件	2 件	34 件	19 件	21 件
平成 30 年	49 件	3 件	0 件	0 件	1 件	18 件	8 件	19 件

- 昭和29年4月 宇土町・花園村・轟村・緑川村・網津村が合併して宇土町誕生
- 昭和31年4月 10月 走瀧村と不知火村伊無田地区が宇土町に編入
- 昭和33年10月 富合村三十丁地区が宇土町に編入
- 昭和34年12月 網田村を宇土町に合併 宇土市制施行 初代市長 大和忠三氏
- 昭和35年10月 住吉中学校完成
- 昭和37年3月 第15回国民体育大会（重量挙げ競技）開催
- 昭和38年12月 本町通りで大火（7戸全焼）
- 昭和40年5月 上水道完成
- 昭和41年4月 市庁舎完成
- 昭和42年7月 宇土市の大字を廃し町とする町名改正
- 昭和44年11月 12月 宇土市外9カ町村衛生施設組合し尿処理場完成
- 昭和45年3月 老人福祉センター完成
- 昭和47年6月 戸口町で大火（32世帯188人被災）
- 昭和48年4月 宇土・轟の両小学校を統合し、宇土小学校完成
- 昭和49年4月 勤労青少年スポーツセンター完成
- 昭和50年3月 8月 市民会館完成
- 昭和51年2月 8月 宇土・富合清掃センター完成
- 昭和52年4月 12月 老人ホーム「芝光苑」完成
- 宇城広域消防衛生施設組合開始（10カ市町村）
- 昭和50年3月 宇土中央線立体橋開通
- 昭和51年2月 就業改善センター完成
- 昭和52年4月 図書館完成
- 広域火葬場「龍燈苑」完成
- 運動公園グラウンド完成

- 昭和53年2月 武道館完成
- 昭和54年4月 宇土城跡（西岡台）が国指定史跡に選定
- 昭和55年5月 6月 学校給食センター完成
- 昭和57年4月 6月 向野田古墳出土遺物が国指定の重要文化財に選定
- 昭和58年5月 児童センター完成
- 昭和60年7月 市民体育館完成
- 昭和61年8月 2代目市長に田代捨己氏が就任
- 昭和62年4月 福祉センター完成
- 昭和63年5月 勤労青少年ホーム完成
- 昭和66年7月 熊本県総合青年祭開催
- 昭和67年7月 9月 轟水源が「名水百選」に認定
- 昭和68年4月 第1回宇土大太鼓フェスティバル開催
- 昭和69年4月 宇土東小学校開校
- 昭和70年4月 集中豪雨で被害（平木橋流失）
- 昭和71年5月 轟泉自然公園完成
- 平成2年4月 3代目市長に西田誠氏が就任
- 平成3年9月 台風19号で記録的な被害
- 平成4年6月 大太鼓収蔵館完成
- 平成5年9月 11月 第1回紫陽花マンドリンコンサート開催
- 平成6年6月 12月 国道3号松橋バイパスが開通
- 平成7年3月 12月 第48回熊本県民体育祭開催
- 平成8年3月 10月 宇土市の人口が3万5千人突破
- 平成9年3月 健康福祉館「あじさいの湯」完成
- 平成10年3月 県民文化祭宇城開催
- 平成11年3月 保健センター完成
- 平成12年3月 網田焼の里資料館開館
- 平成13年7月 御輿来海岸が「日本の渚・百選」に選定



● 網田焼の窯跡

江戸時代の経済学者・佐藤信淵は「磁器は肥後網田山を第一」と絶賛しました。



● 日本一小さな鳥居

粟嶋神社のこの鳥居をくぐると無病息災などのご利益があるといわれています。



● 轟水源と轟泉水道

轟水源から取水する約350年前に建設された轟泉水道は国内現役最古の上水道。

平成9年1月 宇土合同庁舎（税務署・法務局）完成
 平成10年1月 上天草・宇城水道企業団発足
 宇城広域連合が発足
 2月 宇土・富合清掃センターごみ焼却処理施設が完成
 3月 4代目市長に田口信夫氏が就任
 4月 宇土マリーナ完成
 平成11年5月 台風18号で記録的な被害
 9月 第54回国民体育大会（相撲・ヨット競技）開催
 9月・10月 防災センター完成
 平成12年5月 女性消防隊誕生
 平成13年5月 全国高校総体（相撲・ヨット競技）開催
 8月 公立保育所の民間委託開始
 平成14年4月 宇土雨乞い大太鼓が
 重要民俗文化財に指定
 平成16年9月 熊本県民体育祭で女子が総合優勝
 平成17年4月 指定管理者制度スタート
 8月 大王のひつぎ実験航海で大阪南港に到着
 平成18年4月 宇土マリーナ物産館が完成
 6月 議員定数が22人から18人に4減
 平成19年9月 第62回熊本県民体育祭開催
 平成20年2月 走瀧地区上水道供用開始
 7月 市民会館がリニューアルオープン
 10月 市制施行50周年記念式典を開催
 うとと教育の日を制定
 12月 大相撲宇土場所を開催
 平成21年3月 国道3号松橋バイパス4車線拡幅開通
 4月 県立宇土中学校開校
 11月 J R宇土駅の新駅舎が完成
 平成22年3月 宇土駅周辺地区整備事業完了
 4月 5代目市長に元松茂樹氏が就任

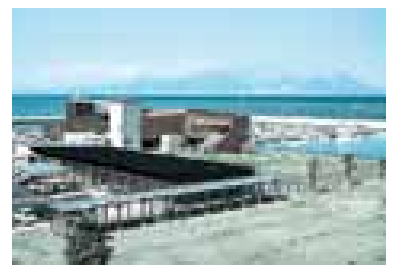
12月 宇土大太鼓フェスティバル実行委員会がくまもと県民文化賞受賞
 平成23年3月 網津小学校新校舎完成
 9月 宇土小学校新校舎・屋内運動場完成
 うととん行長しゃん誕生
 平成24年3月 花園コミュニティセンター完成
 7月 善道寺町にコメリ・パワー開店
 10月 コミュニティバス・ミニバスが運行開始
 平成25年8月 市民体育館リニューアルオープン
 11月 水町に複合型商業施設「フロス21UTO」開店
 平成26年12月 網田駅舎が国登録有形文化財に指定
 平成27年7月 秋篠宮ご夫妻が轟水源と大太鼓収蔵館をご視察
 平成28年1月 正代関が大相撲1月場所で新入幕
 記録的な大雪
 4月 熊本地震が発生・記録的な被害
 6月 網田で献穀事業「御田植祭」開催
 豪雨災害で記録的な被害
 8月 熊本地震で被災した市役所庁舎を解体
 宇土の雨乞い大太鼓が国重要有形民俗文化財に指定
 平成29年3月 三拾町にカインズ熊本宇土店開店
 10月 島田海吏選手がプロ野球阪神タイガースへ入団
 5月 植田直通選手がサッカーワールドカップ日本代表に選出
 12月 大相撲宇土場所を開催



●不知火諾右衛門の墓
 横綱土俵入りの不知火型を創設した栗崎町出身の第8代横綱・不知火諾右衛門。



●宇土の雨乞い大太鼓
 平成29年に雨乞い大太鼓としては日本で初めて国重要有形民俗文化財に指定されました。



●道の駅宇土マリーナ
 平成18年4月に日本で初めてマリーナを併設する道の駅としてオープンしました。

選ばれるまち
選ばれ続けるまち
熊本県宇土市



宇土市市勢要覧

平成31年(2019年)3月
発行 宇土市
表紙 作・大垣 昌紀(泉佐野市)

〒869-0492 熊本県宇土市浦田町51番地
TEL.0964-22-1111
FAX.0964-22-2928
E-mail machi03@uto.kumamoto.jp



宇土市マスコットキャラクター
うどん行長しゃん



宇土市ホームページ
<https://www.city.uto.kumamoto.jp/>